

◆ 2022 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：越谷アリタキ緑の会

25A-08

代表者：会長 圓本 謙次

URL :

1. 活動が必要とされた状況

植物学者である故・有瀧龍雄氏が所有していた Aritaki Arboretum は、かつては国際的な植物園自然保護国際機構 (BGCI) に登録された日本では希少な樹木植物園です。2002 年に市に遺贈され、2010 年に「越谷アリタキ植物園」として開園し、市公園緑地課のもとで「越谷アリタキ緑の会」が運営・管理に従事しています。地域の環境学習・自然観察・情操教育の拠点として、魅力ある展示室・植物園を目指して活動中です。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2 年ぶりの全体会議を 12 月に開催し、現会員数は 19 名減の 52 名になりました。コロナ感染者や濃厚接触者も出て、活動自粛の会員も多かったようです。毎週水曜日の定例会に参加するメンバーは 30 名前後となっています。また、ガイド・樹木・野草・企画広報の班ごとに、毎月 2、3 回活動しています。植生調査、剪定、移植・除草作業等は、樹木班・野草班を中心に実施し、日曜祝日には、ガイド班が園内の無料ガイドを続けています。

夏休み子ども向けイベントは開催しましたが、一般市民向けの研修会、講演会は全て、企画途中で開催を断念しました。コロナ禍が少し治った秋に開催した「協働フェスタ」と「市民祭り」には出展参画し、来訪者向けに準備した PR 用の教育資料等が大変好評を得ました。

今年度校外授業で訪れた小学校は 3 校計 5 回、また外部からは、地域新聞と埼玉テレビの取材が入りました。6 月から試験栽培したコシガヤホシクサは順調に生育し、12 月末に種子を採取出来ました。来期はキタミソウとアサザの試験栽培を試みます。枯れたウィローオークの幹周辺にベンチを置き、アサギマダラ蝶を誘うためフジバカマを移植し、近くにロックガーデンも復活しました。



ロックガーデン 復元



フジバカマ 移植

3. 活動の成果

小学 1~3 年生を対象に、自然に親しみ、生き物と共生するまちづくり・SGDs・ESD 教育を意識しながら、たくましく生きる術を学べられる植物・樹木の触れ合い体験ができました。学校側とも協議しながら、校外学習を展開して 9 年目、参加校は延べ 40 校 4 千名余に上っています。後日、親子で訪れる小学生のリピーターもいます。親に自慢げに説明している子どもたちは未来のインタープリターです。私たちの活動の糧になっています。



4. 今後に残された課題

植物園として長期的に管理ができる体制を整えて行きたいと思います。植物を守る一つの取り組みが、次世代の人材づくりにもきつとつながっていくものと確信しています。